

平成22年度 岐阜県立本巣松陽高等学校外部評価結果と課題 (生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果を踏まえて)

1. 対象：生徒3クラス（各学年1クラス 3年37名、2年40名、1年40名）
保護者（各クラス5名、学校評議員5名）
2. 「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の目的
 - (1) 教育水準の向上を図り、開かれた学校・信頼される学校づくりを一層推進するために、学校が学校内外からのニーズに応じているかどうかを点検すること。
 - (2) 各学校が定めた単年度の具体的かつ明確な重点目標の達成状況や取組状況を評価し、自己評価の材料として、その結果を活用すること。
3. 項目：共通項目（1～30）岐阜県教育委員会 学校支援課より
学校独自項目（31～35）
学校独自項目については、客観性を保つことから次の2つの区分とする。
 - (1) 学校評議員や学校関係者評価委員等の意見を取り入れた項目
 - (2) 各学校の教育方針、教育目標及び教育指導の重点に従い、学校の定めた項目
4. 結果と分析
 - ・保護者の学校や教職員に対する共感、信頼度は、昨年度と比較して大幅に増加した。特にほとんどの保護者が、学校の教育方針や指導の内容に関して共感できるとした。冬季や夏季の補習を始めた効果も大きい。
 - ・メール配信システムの普及もあり、事故・不審者情報等の適宜発信による危機管理・危機回避意識の高揚に関して、保護者のA・Bが大幅に増えた。また、学校からの連絡文書等もメールでも併せて連絡していることもあり、保護者に確実に伝わるようになってきている。
 - ・その一方で、「学校の先生が悩みや相談事に親切に対応してくれる」、「学校では、生徒のことをよく理解して一人一人に合った生徒指導をしている」のA・Bの割合が特に、生徒のアンケートで低いのが気になる。いじめや差別を許さないことに関しても、保護者、生徒もやや数値が低い。
 - ・「総合的な学習の時間」や「HR活動の時間」を有意義に感じている生徒は昨年度同様半数ほどである。ボランティア活動の機会の提供に関しても低い数値になっている。
5. 今後の課題
 - ・教育相談週間だけでなく、日々の生活の中で、教育相談、進路相談などを実施して生徒理解に努め、生徒一人一人の悩みを十分に聞き、それに対応できるようにする。
 - ・「総合的な学習の時間」や「HR活動の時間」を充実させる。
 - ・「いじめ」に関しては、「迷惑・いじめ」に関する調査の実施、的確な初期対応と生徒の心のケアを行う。